

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



世界で起こる戦争・紛争は『誰か』のこと？

現在、世界ではロシアの軍事侵攻から始まった「ウクライナ戦争」、イスラエルのガザ地区での内戦、ミャンマーの軍事クーデター後における軍事政権と民権派の戦闘など、残念ながら戦争や紛争が絶えません。世界の様々な地域で、何の罪もない多くの民間人が戦闘に巻き込まれ、犠牲になっています。このような世界情勢に対し、私たち日本人は「他人事」のように考えていませんか？ かつて日本も軍国主義の政権下で、多くの民間人が空襲による犠牲となり、多くの若者が徴兵され、戦地で命を落としました。また、何よりも忘れてはならないのは、日本人が「加害者」であったという事実です。日中戦争における「南京大虐殺事件」をはじめ、日本人が東アジア、東南アジアで行った極悪非道の行為から目を背けてはなりません。では一体、なぜ日本人がこのような行為を行うようになってしまったのか。その原因は「学校教育」にあったと言わざるを得ません。

大日本帝国憲法と教育勅語

幕末から明治維新の頃の世界では、いち早く近代化を推し進めた欧米諸国が世界各地に進出し、植民地獲得競争を繰り広げており、日本が植民地化を免れるためには「近代化」を急ぐ必要がありました。そこで政府は産業の発展に努めた他、伊藤博文を中心にアジア初の憲法である『大日本帝国憲法』を制定しました。この憲法では、主権者は天皇とされ、国民を「臣民」（天皇の家臣）と位置づけました。更に「天皇は神聖にして侵すべからず」として天皇神格化を図りました。とは言え、当時の国民の間には浸透していなかったため、政府は学校教育を利用し、『教育勅語』（きょういくちよくご）を発布して、始業式や入学式、終業式や卒業式など行事がある度に校長先生が読み上げ、他の教師や生徒は頭を傾けて静かに聴く他、生徒全員が教育勅語を暗記させられました。因みに教育勅語とは、天皇が下されたお言葉で、その内容を要約すると「天皇の祖先が日本を創った神であり、天皇の下で忠義を尽くし、親孝行に努め、家族や仲間との和を大切にし、もし国家の存亡に関わる事件が起これば国家のために尽くす臣民となること」などが記されています。こうして第二次世界大戦では、「天皇陛下万歳！」と言ってアメリカの軍艦に体当たりして命を捧げた特攻隊員などを生み出しました。ただし、天皇がこのような戦争を望んでいた訳ではなく、軍事政権によって利用されていたと言って良いでしょう。

日本国憲法と基本的人権

敗戦後の日本では、アメリカの占領下で新憲法の作成に取り組み、その結果、世界に類を見ない平和憲法である『日本国憲法』が制定されました。この憲法では、主権者は国民となり（国民主権）、戦争を永久に放棄し（平和主義）、基本的人権が保障されました。これにより、日本は今後も戦争に巻き込まれることなく、「人権」も保障され続けるのでしょうか。残念ながら世界では戦争や紛争が絶えず、日本の周辺諸国での軍事態勢も気にかかります。また、人権についても、「ハンセン病」患者への不当な隔離や公害病への対応、えん罪による不当な逮捕、高齢者をターゲットにした「オレオレ詐欺」など弱者の人権が軽視されている現状があります。また、度々起こる地震などの自然災害によって、人間らしい生活が失われる事も多々あります。正に『誰か』のこと？ じゃない問題ですよ。世の中で起きる出来事を、常に『自分の事』に置き換えて考え、行動できるようにしたいですね。